

## 2014年度事業報告書

特定非営利活動法人 アジア女性自立プロジェクト

### I 事業概観

概要	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年9月1日付でNPO法人の登記を完了した。</li> <li>・2014年は、新しい組織体制のもとで、法人としての組織基盤の強化に重点を置いた。</li> <li>・法人の活動を紹介するために新しいロゴ、ウェブサイト、パンフレットなどの改定を行い、積極的に会員・支援者の拡大に努めた。</li> <li>・当団体設立20年を機にこれまでの活動を振り返り、次年度へ向けて新たな活動展開の在り方を模索した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人を取得するにあたり、前年度からこれまでの活動を振り返りながら、改めて何を団体の根幹的な価値に据えるのか、どんな事業を展開するのか、私たちは何なのか、を何度も問い直し趣旨書、定款など必要な書類を整えた。法人認証を得たことではなく、その長いプロセスが新たな事業展開のための重要な基盤づくりとなった。</li> <li>・法人化を機に新たな会員や寄付者が集まった。</li> <li>・今後は新たな支援者の方々に成果を示し、引き続き会員、寄付者などとして関わっていただけるように努力する必要がある。</li> </ul>

### II 事業の実施に関する事項

#### 1 海外事業

##### (1) フェアトレード等を通じた女性の自立を促進する活動

実施内容	成果と課題
<p>2014年度は、これまでのフィリピン、インドネシア、タイ、ネパールの各地域の生産者とともにフェアトレード事業の検証と評価を行い、新たな目標を設定し、計画を立てた。国内販売においても同様に検証を行い、生産者の体制と国内市場に合った製品開発を進めた。</p> <p>2014年度の製品仕入額は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外仕入費</li> <li style="padding-left: 20px;">フィリピン 212,066 円</li> <li style="padding-left: 20px;">タイ 161,760 円</li> <li style="padding-left: 20px;">インドネシア 280,501 円</li> <li style="padding-left: 20px;">ネパール 83,814 円</li> <li style="padding-left: 20px;">合計 738,141 円</li> <li>・国内仕入費 303,372 円</li> </ul>	<p>生産者とともにこれまでの事業の検証を行い、連携の在り方について共通認識を持ったことにより、2014年度の意思疎通が順調になった。一方で、関係性の重視と製品の開発に力を入れたことにより、収益に影響する新製品入荷の時期の遅れが見られた。生産者の状況を考慮しながらも収益とバランスを取ることが課題となった。</p>

## ① フェアトレード生産者のエンパワメント

生産者	実施内容	成果と課題
Lampara house (フィリピン)	現状の課題を分析し、それを解決しながら、日本での販売拡大を目指した。 5月にスタッフが出張で、また8月にスタディツアーで参加者とともに生産者を訪問した。 また、9月に AWEP20 周年記念集会のゲストとして2名の生産者を招聘した。	ランパラハウス設立時と比べ、現地でのネットワークや注文数が増加している。AWEP との意思疎通も良好である。また、日本企業一社から AWEP を通してオリジナル製品の発注があり取引を開始した。新たな販売方法が広がっている。 課題としては、少量多種の製品の受注やマニラで開かれる週末イベントへの出店のため、長時間勤務状態が見受けられる。生産体制の在り方や製品価格の見直しの必要がある。
APIKRI (インドネシア)	11月に訪問し、製品の品質や注文時期、生産者の様子について聞き取りを行った。	AWEP との意思疎通は良好である。しかし、生産者や天候の都合で生産に遅れが生じ、2014 年度は入荷が2ヶ月半ほど遅れた。発注時期を早め、入荷希望時期を共有するなどの対応が必要である。
KPTB (インドネシア)	2013 年度は製品品質の低下や意思疎通の困難な状況が見られた。11月に行った協議では、生産者の意向を踏まえ、製品の種類や注文方法を簡素化し、安定した取引となるよう話し合った。	11月の協議以降、製品の生産状況と意思疎通の状況は改善されたため、引き続き、安定的取引に向けて注視していく必要がある。
BTF (タイ)	2013 年度と同様に現地在住の日本人の協力者を通して連絡しているため、良好に意思疎通が取れ、2度の入荷があった。	安定的に生産が継続されている一方で、体制の不安定さが見られる。これまでに BTF 構成メンバー6名のうち2名が抜けていたが、さらに2014年4月に1名が家庭の事情で休職状態となった。家族の活動への理解と適正な賃金の確保が必要である。AWEP としては、訪問時に家族を含めた交流や、安定的な発注が課題である。
KABW (ネパール)	KABW は、取引を開始した10数年前に比べ、現在は他団体から大口の受注があり、運営が安定している。そのため、AWEP は他の連携団体の育成に重きを置き、2014 年度は注文を見合わせた。	2014 年度は同団体に発注を行わなかったものの、定期的に意思疎通を取るなど、良好な関係性は継続している。今後は、製品の取引だけではない新たな連携も視野に入れていく。
Shakti Samuha	製品開発やマネジメントの	意思疎通は良好であるが、製品の品質は改善の必

(ネパール)	<p>強化について継続的に連絡を取った。2014年8月に渡航した際、作業場の整備について話し合った。Shakti Samuhaより提案された生産者グループ立ち上げに関する企画を踏まえ、2015年度に向けて、啓発キャンペーンを企画した。</p> <p>2012年に開始したさをり織りを使用した製品を注文した。</p>	<p>要がある。</p> <p>また生産体制やマネジメントも不安定であるため、啓発キャンペーンを通して体制づくりをサポートし、生産グループ立ち上げを支えていく。</p>
--------	---	--

## ②国内販売活動によるフェアトレードの促進

項目	実施内容	成果と課題
製品企画開発	<p>在庫状況と製品を企画開発するため現状分析を行った。分析の結果、ブランディングの必要が認められたため、製品ラインをAWEPらしさのイメージを重視した製品開発を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランディング会議を行うことにより、今後取り扱う製品のコンセプトが明確になった。</li> <li>・打ち出したコンセプトがマーケットのニーズにあっているかを2015年度は検証していく必要がある。</li> </ul>
製品管理 品質管理	<p>新しい製品管理ソフトを導入し、在庫製品データを一新した。</p>	<p>製品管理ソフト導入により、製品管理がスムーズに行えるようになった。しかし、担当者が扱いに不慣れということもあり、データの入力にとどまっているため、同ソフトの機能を活用し売上データ分析から、製品開発、販売促進に生かしていくことが必要である。</p>
販売促進	<p>2014年度の販売基本計画に基づき着実に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品紹介ちらしの発行(3回)</li> <li>・製品カタログの発行(2015年3月)</li> <li>・登録店舗に対し製品の入荷状況などのメールニュースを発行した。</li> </ul> <p>また、潜在的購入者を増やすために、販売関係者や消費者が生産者の情報を得られるよう、ネパールフェアやイベントを実施した。</p>	<p>登録総数は85店舗に増加し、目標数(80店舗)を達成した。しかし1店舗あたりの発注回数と売上、及び発注店舗数が2014年度に比べて減少している。さらに問題を分析した上で、製品開発、販売促進のあり方を見直す。</p> <p>ちらしの効果は店舗、会員ともに少なかった。2015年度は広報媒体を検討し、効果的な広報を行う。</p>

## (2) 女性のエンパワメントに資する活動

項目	実施内容	成果と課題
スタディツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン（2014年8月4日から11日まで）関西学院大学社会連携プロジェクトとの共同プログラムとし、学生を中心とした人が7名参加した。</li> <li>・ネパール</li> </ul> <p>2015年3月12日から22日までの11日間のツアーを計画したが、最少催行人員に達せず催行を断念した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピン</li> </ul> <p>社会人と学生が参加していたため、基礎知識や関心が多様であり、理解度や満足度にばらつきが見られた。訪問箇所が複数に渡ったため、当事者からの聞き取りが中心となった。次期開催時には、参加者が受け身となる聞き取りと、主体的な参加ができる交流とのバランスを意識してプログラム企画を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネパール</li> </ul> <p>企画内容、広報、旅行会社の選択から見直す。</p>

## 2 国内事業

### (1) 日本に住む外国人女性の生活相談や情報提供を通じた生活支援

項目	実施内容	成果と課題
① 生活相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日に電話相談、及び来所による相談対応</li> <li>・他団体との連携</li> </ul>	<p>2014年度に受けた相談件数は12件であった。同行支援、弁護士による対応が必要な案件はNGO 神戸外国人救援ネット等の他団体に紹介できた。</p> <p>団体間の連携に非効率な点などもあったため、より効果的な連携のあり方を模索する必要がある。また、これまでの相談事例の整理・検証、連携先の情報整理、相談票等の書式の改定を行い、相談事業のあり方の整理を進める。</p>
② 情報提供事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしん通信の発信(No.174-195 全22回)</li> <li>・ガイドブック『2013年度版「外国人のための役立つインフォメーション」』: 改定に向けた内容チェック・校正作業、ポルトガル語版の発行(200部)</li> </ul>	<p>あんしん通信事業は、内容・情報源の整理など、事業の基本的な部分の整理が未着手であるため、早急に着手し通信内容の充実と登録者の増加をめざす。</p> <p>ガイドブックは2013年度版の在庫数が250部程あり、それらの配布計画を立て、正誤表とポルトガル版と共に配布を進める。</p>

### (2) 共生社会を創り出すための交流・啓発・アドボカシー活動

項目	実施内容	成果と課題
① 他団体との関係強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひょうご DV 被害者支援連絡会(HYVIS) 定例会への参加(4月、6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HYVIS としての活動内容が、2015年度は再検討される予定である。</li> </ul>

	<p>月、8月、10月、12月、2015年2月の6回)。神戸市、兵庫県、兵庫県警のDV被害者支援担当者との懇談。</p> <p>・「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」の全国ワークショップに参加(2014年6月7日、8日 於:宮城県仙台市)。</p>	<p>・AWEP内でもHYVISの活動内容の共有をし、AWEPとしての関わり方を検討していく。</p> <p>・移住連は2015年度からNPO法人化され、引き続き団体会員(正会員)として参加、連携する。</p>
②勉強会、セミナーの実施	<p>・報告会「ネパールさをり事業について」12月6日開催(参加者12名)</p> <p>・報告会「ネパールさをりの今」2月15日開催(参加者10名)</p> <p>・2015年2月28日(土)神戸市DV被害者支援者養成研修事業「シミュレーションから学ぶ外国人DV被害者支援の現場」開催(参加者25名)</p>	<p>・ネパールに関するセミナー開催の回数を重ねるごとに同事業への関心、課題の現状についての認識が深まっている。理解する、関心を持つことから、参加の入口を工夫するなど、多様な関わり方の提案をしていく必要がある。</p> <p>・セミナーは、登壇者との念入りな準備が奏功し有意義な内容となり、参加者にも好評であった。今後は、より参加者数を増やすための広報活動の工夫をしたい。</p>
③20周年記念事業の実施	<p>・20周年記念誌『アジアの女性と手をつなぐ』の発行(500部)</p> <p>・20周年記念イベント「AWEPの20年とフェアトレード」の実施(参加者99名)</p>	<p>・ボランティア主力で編集、発行にこぎつけた。</p> <p>・編集力の問題と予算を大幅に超過したことが反省点であった。</p> <p>・フェアトレードについての理解を深め、AWEPの認知を高める機会となった。</p>
④英語交流	<p>月2回(月曜午後2時間)</p> <p>*8月から休止</p> <p>講師:チェイス洋子さん(登録者4名)</p>	<p>参加者の満足度は高く再開の期待があり、他方講師からも、参加状況が改善し意欲あれば再開可能との意向もあったが、登録者の増加と出席率の改善は現行日程上見込みにくいこと等の理由から2014年度で本事業は一旦終了する。</p>
⑤通訳翻訳依頼のコーディネート	<p>実績:スペイン語翻訳1件</p>	<p>本事業を積極的に広報し推進しているわけではなかったが、個別に打診があったため対応してきた。今後もAWEPの取り組みとして可能な範囲で人材やネットワークを生かしニーズに対応する。</p>

### 3 組織運営・その他

項目	実施内容	成果と課題
ニューズレター	No.40(5月15日)、No.41(11月14日)の発行	41号で大幅にデザインを変更し、カラフルでより読みやすい紙面になり、読者から好評を得

	No.41 はデザインを一新し、A3 二つ折り 4 ページ、カラー印刷にした。	た。課題としては、ニュースレターでの情報量が減ったので、今後は新しくなったWEBページや SNS を利用して情報量をカバーしていく。
ボランティア	ボランティアのスキルを生かせるよう活動とのマッチングを図った。 2014 年度はボランティア 8 名が新たに登録・参加、語学力、デザインといった、それぞれの専門性を生かして活動した。	有給スタッフの体制は厳しかったが、熱意と専門性や経験をもつボランティアが参画してくれた。今後も引き続き担い手として関わっていただけるような場をつくっていく。
広報ツール	ロゴ、リーフレット、ホームページを改訂した。こうしたツールを活用し会員・支援者拡大を図った。	ホームページの改訂完成の予定が4ヶ月以上遅れた。作業の進捗確認のあり方は反省点である。今後もイメージを一新したツールを十分に活用し、潜在的な支援者に AWEP の活動情報が届くように努める。
ファンファンパーティ (資金開拓)	新たな資金開拓の方法としてパーティのスタイルを取り入れ、2回実施した。 ・夏の巻(7月19日) 会場：インドネシアレストランバリ・ラグーン(芦屋) 参加者：15名 ・冬の巻(12月6日) 会場：ネパールレストラン「パリジャート」(尼崎) 参加者：6名	いずれも定員に及ばなかったが、AWEP に初めて関わる参加者、新たに会員になってくれた人など、広がりがあったことは大きな成果である。ただ、夏の巻ではスタッフの体調不良などで予定していたプログラムが実施できなかったことなどが反省点である。 しかし、これまでにない資金開拓を試みることでできたのは、参加者数の多寡以上の価値だった。
AWEP 説明会	日常的に AWEP への視察訪問、インタビューなどの問合せがあったため本年度下半期より、スタッフの負担を減らすためまとめて集合説明会を事前予約で定期開催することにした。 (第三土曜日 午後1時から2時、第四水曜日 午後4時から5時) しかし同期の参加はなかった。	メールを通じた会員等への告知は行ったが、より広く広報は出来ておらず、周知は不十分であった。ウェブサイトでの広報などを図る必要がある。
団体紹介映像作成	「2013 年度山中榮子メモリアル基金」からの助成金による映像作品。作品を完成させ、20 周年記念イベントで披露した。	素材の問題、体制の問題などから、作成が大幅に遅延。映像編集の時間が十分とれないことから、パワーポイントから映像化することになった。生産者の声など再度撮影し、映像として別途作成しなおすことを検討したが、実施でき

		<p>なかった。</p> <p>しかし映像による活動紹介は今後ウェブサイトを活用した広報展開を考える上でも不可欠である。また撮影技術の向上、映像制作ソフトの活用、人材発掘なども必要である。</p>
--	--	--

#### 4. 助成金の実績

本年度も多くの助成団体から採択され、その助成によってよりよい事業を行うことができた。

助成金名	事業名	助成額	内容
一般財団法人 日本国際協力システム	フェアトレード製品販売の促進による財政基盤強化プロジェクト *2013 - 2014 年にかけて実施	1,000,000 円	当団体の組織基盤整備
特定非営利活動法人 アルシュ	人身売買サバイバー女性のフェアトレード製品生産環境改善プロジェクト *2013 - 2014 年にかけて実施	100,000 円	同事業における資材購入など
一般財団法人 大竹財団	アジア女性の自立をめざした 20 年の活動を伝え、フェアトレードの未来を考える事業	500,000 円	当団体設立 20 周年記念のイベント、及び冊子作成
公益信託 神戸まちづくり六甲アイランド基金	在日外国人女性への生活情報発信と相談活動及び外国人女性のためのガイドブックのポルトガル語版冊子発行	500,000 円	相談事業及びガイドブックポルトガル版作成
公益財団法人 兵庫県国際交流財団	アジア女性の自立をめざした 20 年の活動を伝え、次へつなぐ冊子の作成	20,000 円	設立 20 周年記念の冊子作成の一部
2013 年度山中榮子 メモリアル基金	アジア女性の自立をめざして For Asian Women's Empowerment	100,000 円	当団体の活動紹介の映像作成

#### III 事業の実施体制

項目	内容
会議	<p>①理事会 2014年4月19日、7月19日、10月29日、2015年1月25日</p> <p>②事務局会議 原則毎月第1水曜日に開催</p>
事務局の体制	<p>&lt;有給スタッフ&gt;</p> <p>①事務局長：有吉真紀 理事（海外事業国内部門担当兼務）</p>

	<p>②海外事業統括：大森恵実 理事          ③国内事業統括：鋤柄利佳 理事          ④その他事業担当：          ファンドレイズ・会員支援者関係、ネパール事業：奈良雅美 理事          海外事業タイ担当：村上菜摘 理事          &lt;定期事務局ボランティア&gt;（五十音順）          いなだ多恵子、岡内克江、笠原幸子、鹿嶋節子、チェイス洋子、西谷紗恵、もりきかずみ、吉田和代、矢野淳子</p>
会 員	運営会員 25名 賛助会員 55名 *2015年3月末現在
他団体との連携	<p>&lt;地域&gt;          特活) たかとりコミュニティセンター（神戸市長田区）：同センター所属のメンバーとして連携し地域の活動に取り組んだ。          ・定例連絡会（毎月第2、4土開催）          ・理事会への理事派遣（年4回開催）          ・1.17 記念イベント（2015年1月16日から18日 たかとりコミュニティセンター）          &lt;女性支援・外国人支援&gt;          ・HYVIS：兵庫県内の女性支援団体との定例会議（偶数月第4水曜日）に参加。          ・DV 被害者支援者養成セミナーをNGO 神戸外国人救援ネットと共同して開催（2015年2月28日 於：あすてっぶ神戸 参加者25名）。          ・「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」の全国ワークショップに参加（2014年6月7日、8日 於：宮城県仙台市）。          &lt;国際協力&gt;          特活) 関西NGO協議会（大阪市）：関西のNGOのメンバーとして協働イベントに参加した。          ・ワンワールドフェスティバル（2015年2月7、8日 大阪市北区民センター他）</p>

以上